

第6学年 国語科学習指導案

児童 男子9名 女子12名 計23名
指導者 安本 泉

- 1 単元名 読書の世界を深めよう 教材名 「森へ」「本は友達」
- 2 単元について

■指導事項（新学習指導要領）■

- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 <読むことーエ>
- 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 <読むことーオ>
- 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 <書くことーイ>

(1) 児童の実態

これまでに児童は、4学年で本のすじをまとめたり、中心部分を詳しく読んだりして、友だちに「おすすめの本カード集」を作る学習をした。5学年では、読書会の目的に従い、効果的な読み方を工夫し自分が選んだ本の内容を紹介する学習をした。紹介の感想文では、主人公に寄り添い共感したり、反発したりしながら、自分が感じたことを表現することができた。しかし、自分の感動を伝える一方で、聞き手が読みたいと思うような語彙の使用はほとんどなく、また、作品のテーマから外れた視点で書き進めようとする児童も数名いた。

児童は、常に机や手提げバックの中に本を入れて、朝読書や空いた時間などにすぐ本が読めるようにしている。本を読むことが好きな児童が多く、読むときは集中して読んだり、友だちが読んで楽しかった本があると借りたり貸したりしながら、意欲的に読んでいる。しかし、スポーツの解説書や携帯小説など、情景描写の優れた作品や文学的な作品から離れた本ばかりを読むなど選書に偏りが見られる児童も少なくない。

(2) 教材について

本教材は、アラスカという未知の自然の中に身を置いた筆者が、見たこと、感じたこと、考えたことを優れた情景描写を散りばめながら書き綴っている紀行文である。五感にかかわる表現や比喩表現、問いかけの文などの文章表現が特徴的であり、作品の世界にどんどん引き込まれていくような感じを受ける。また、各ページにある写真も魅力的で、大自然のイメージをふくらませ、興味をもって読むことができる。

この作品では、「命」「自然」「時間」「生きるということ」などのテーマが考えられる。そこで、叙述に即した読みから筆者と共に森を歩いているような一体感や臨場感にひたること、作品の読みどころから自分の思いや考えをもつことなどの活動によって、テーマにせまっていくことができるのではないかと考える。この思考活動によって、読書を通して感じた喜びや感動を「推薦文」で伝えるという言語活動につなげていきたい。「推薦文」は「感想文」と違い、「本の紹介と読みどころを勧める文」である。書く目的も内容も違うということを認識させ、意図が明確になる文章を書かせたい。自分が読んだ本の世界を友達と交流して楽しさを味わうことが、さらに読書生活を広げたり、深めたりすると考える。

(3) 指導にあたって

みとおす（導入）段階では、読書経験や本を紹介した経験について友達と交流する中で、初めて出会う推薦文とはどういった文章なのか、という表現の様式の特徴に興味や関心をもたせる。そして、推薦文は常に読み手の視点に立って書かなければならないことに気付かせたい。これらの活動が、「推薦文を書いて伝え合う表現活動を行う」という単元の見通しをもたせることにつながると考える。

ふかめる（展開）段階では、「森へ」の表現方法の工夫（比喩法、擬人法、問いかけの文）を探して、場面のイメージを想像したり、その効果を考えたりする。また、森に対する筆者の心の動きがどう変化したかという視点を与え、作品の読みどころについて、根拠に基づいた自分の考えをもたせたい。そして、考えたことを友達と交流しながら、それぞれの考えのよさに気づかせ、

テーマにせまらせたい。

まとめる（終末）段階では、推薦文は、友達の要望（読みたい本）に応えるように意図して書く文章であることを確認する。読みどころや読んだことによってはどのような学びや感動を得ることができるのかを、効果的な表現や推薦語彙を使って書くことを身につけさせたい。「お薦めの本」発表会で友だちにお薦めの本を推薦したり、推薦文を互いに読み合い、構成や内容などに着目してよいところを認め合ったりする活動の中で、子どもたちの読書に対する興味や関心を高めていきたい。

(4) 研究との関連

本単元では「交流を通じた言語活動」として、「感想文と推薦文の違いについて意見交流する」「筆者の森に対する思いから自分が考えたことを交流する」「読書発表会で推薦文を聞き合う」「推薦文を読み合い評価し合う」を設定する。本を推薦するためには、作品の読みどころを理解し、そのよさを相手に責任をもって伝えようとする思いが必要である。相手にとって価値がある内容を選び出し、相手に分かるように伝える力を育てたい。そのために、友達の書いた推薦文を読み合い、文章の書き方のよさなどを交流させたい。

<input type="checkbox"/> 本単元で身につけさせたい言語能力	<input checked="" type="checkbox"/> 文学的文章（物語文）
<input type="checkbox"/> 心情や情景の描写から自分の考えをまとめる力	
<input type="checkbox"/> 場面の情景や描写を読む力	

3 単元の目標

- (1) 「森へ」を楽しみながら読み、さまざまなジャンルの本を読もうとする。
- (2) 筆者の心の動きと場面の情景を叙述に即して読むことができる。
- (3) 目的や意図に応じて、効果的な語句や文を使いながら、自分がすすめる本の推薦文を書くことができる。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・さまざまなジャンルの本に関心を持ち、進んで本を読もうとしている。	・目的や意図に応じて必要な語句や文章を使って推薦文を書くことができる。	・叙述に即して、筆者の心の動きや場面の様子について想像している。	・五感を生かした表現や比喩、問いかけなどの工夫とその効果を指摘することができる。

5 学習指導計画及び評価規準（全13時間）

段階	主な学習活動	評価規準	交流を通じた 言語活動
一次 (導入)	読書経験や読んだ本を伝える方法について振り返る。 ・これまでどんな本を読んできたか振り返り、学級の中で様々なジャンルの本を読んで楽しんでいる友達がいることに気付く。 ・要望カードにどんなジャンルの本が読んでみたいかを書く。 ①	・自分が読んできた本や学んできた表現の種類について、興味・関心をもって振り返ろうとしている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 感想文と推薦文の違いについて 意見交流する。 </div>
	学習計画を立て見通しをもつ。 ・モデル文から感想文と推薦文の書き方の違いを見つけ、それぞれの文の特徴に気付く。 ①	・モデル文を読んで、感想文と推薦文の違いを見つけようとしている。	
	・推薦文の内容について、読みどころやあらすじ、効果的な表現が書かれてあることを理解し、学習計画を立てる。 ・推薦文を伝え合う手段として、読書発表会をするという見通しを立てる。 ①	・学習の見通しをもち、計画を立てようとしている。	

<p>二次 (展開)</p>	<p>ふかめる (6)</p>	<p>「森へ」を読み、作品のイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紀行文であることを知る。 ・五感を使った表現・比喩法・問いかけの文からどんなイメージが広がったか、作品をイメージする上でどんな効果があるか考える。 ・「まるで～ようだ」の比喩を使って、森への作品の特徴をつかむ。① <p>「アラスカたんけん記」を読み、アラスカのイメージを広げて、感想をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の人物像や体験したことを知る。 ・写真家の筆者に対する思いやアラスカの動植物の大自然についてイメージを広げ、感想をもち話し合う。① <p>筆者の森に対する思いはどう変化したのか、叙述から読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の心の動きが分かる叙述にサイドラインを引き、自分の考えを書く。 ・筆者が述べている「さまざまな物語」について、自分の考えを書きこみ、まとめる。① <p>筆者が述べる「さまざまな物語」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表する。 ・話し合ったことを基にテーマをおさえる。 ・本時の学習を振り返り、読みどころやテーマを推薦文に生かすことを理解する。(本時)① <p>文章の構成や効果的な文末表現を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「森へ」から読者が興味を引く表現を選んだり、使うとよい推薦語彙を考えたりする。 ・文章構成を考え、「森へ」の推薦文を5年生に向けて書く。(400字程度)① <p>推薦文を読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手の視点に立った内容になっているかについて評価し合う。① 	<ul style="list-style-type: none"> ・「森へ」の作品のイメージをもち、特徴をつかんでいる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・アラスカのイメージを広げたり、筆者について考えたりして、感想をもっている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・五感を使った表現や比喩法、問いかけの文を見つけ、自分の考えを書いている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・友達との交流を通して、自分の考えを振り返り、筆者が伝えたいことを自分なりに理解している。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識を明確にして、目的や内容を考えながら推薦文を書いている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦文を読み合い、評価している。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 筆者の森に対する思いから、自分が考えたことを交流する。 </div>
<p>三次 (終末)</p>	<p>まとめる (4)</p>	<p>自分が選んだ本を読みなおし、作品の特徴をつかむ。※課外での読書活動(一週間程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次で学んだことを生かし、作品の特徴をとらえる。① <p>自分が選んだ本の推薦文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の要望にそって推薦文を書くという目的や作品の読みどころ、テーマ、構成や表現の工夫をとらえて、意図を明確にして書く。① <p>「お薦めの本」発表会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、自分の要望に合っている本であるか気をつけながら聞いたり、はっきり話したりする。① <p>推薦文を互いに読み合い、評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成や内容、表現についてよいところを認め合い、読書に対する関心をもつ。① 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ本を複数冊読み、相手の要望に合うテーマの本を探している。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や内容を明確にして推薦文を書いている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わるようにはっきり話したり、相手の意図は何かに気をつけて聞いたりしている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に読みたいと思わせる表現や推薦語彙、構成、目的や内容を評価している。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 本「推薦文をもとにして、「お薦めの本」発表会をする。 </div>

6 本時の指導

(1) 目標

叙述を基に自分の考えをまとめ、作品のテーマをとらえることができる。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	指導・支援と評価
み と お す (5)	<p>1 前時を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森はどんな物語を聞かせてくれるようだったかを確認する。 <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『ふんの中から、白いキノコがたくさんびている』『死んだ無数のサケが森の自然に栄養をあたえてゆく』『倒木が新しい木々を育てた』の3つの文を板書しておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自分の考えをもとにして、作品のテーマをとらえよう。</div>		
ふ か め る (30)	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">交流を通じた言語活動</p> <p>3 グループで自分の考えたことを発表し、交流する。</p> <p>(1) それぞれの考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と同じ叙述を選んでいても考えたことが違う。 ・自分が考えた言葉よりも適した表現を使っている。 ・自分が考えつかなかったことをよい考えとして認めている。 <p>(2) テーマについて、意見交換をする。</p> <p>4 全体交流をする。</p> <p>(1) 話し合っ分かったよい言葉や自分の考えが深まったことなどを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私は最初～という叙述から～と思っていたが、～さんの～という言葉（考え）を聞いて、～というように考えが深まりました。」 ・「私は、～というテーマを考えましたが、～さんの意見を聞いて～という言葉に言い換えようと思いました。」 <p>(2) 友達の発表を聞いて、改めて考えたことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループのリーダーが進行を務める。 ・「進行のてびき」にそって進められるようにする。 ・各グループの机間指導をし、進行が滞っているときは声をかける。 ・叙述からずれている考えがあったときは指摘し、アドバイスをするように指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・考えの中に「命」「自然」「時間」「生きる」という言葉などを入れて話しているときは、その言葉を観点とする。 ・「命」→つながっていく命、命のバトン、生命力の強さ ・「自然」→偉大なる自然、自然保護、大切な自然 ・「時間」→長い年月をかけて育つ動植物 ・「生きる」→生きることの尊さ、命の大切さ <p>などの言葉にまとめていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をして、黒板の言葉を使いながら書きまとめている児童や自分の考えにつけたしをしている児童を賞賛する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"><評>・自分の考えと比べながら友達の考えを聞き、作品のテーマについて考えをまとめることができる。(ノート、紙板書)</div>		
ま と め る (10)	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で学習したことを、どう推薦文に生かすことができるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習が、単元学習においてどんな意味をもち、何に役立つのかを意識させる。

(3) 交流場面の設定

項 目	内 容
場面・形態	グループ交流（特別：4～5人）→全体交流 自分の考えを発表し、テーマについて意見交流する場面。
ねらい	様々な友達の考えを聞いて、自分の考えをより明確にしたり、修正したり、深めたりする。
留意点	筆者の森に対する思いに視点を置きながら、児童の考えをまとめていく。
教師の動き	児童の考えを聞き取りながら、板書をする。

(4) 本時の具体的な評価

A 十分に満足できる	B おおむね満足できる	努力を要する場合の手だて
<p>友だちの考えを自分の考えと比べながら聞き、よいと思った言葉や考えをつけたしながらまとめることができる。</p> <p>例：森は、むだな命などないということを教えている。不要なものから新しい命が誕生するという命のバトンを守るためにも自然を大切に、つながっていく命を途切れさせないようにしなければいけないと思った。</p> <p>ぼくの考えたテーマは「命のバトン」です。</p>	<p>友だちの考えを聞き、テーマについて自分の考えをまとめることができる。</p> <p>例：森は、命の大切さを教えてくれた。だから、自分の命や動植物の命も大事にしたいと思ったし、森を守りたいと思った。</p> <p>ぼくの考えたテーマは「命の大切さ」です。</p>	<p>うまくまとめられない児童には、板書から自分が共感できる言葉を選び、書き加えてまとめる。</p> <p>例：古い命から新しい命へとつながっていくことに驚いた。命を大切にしなければならないと思った。</p> <p>ぼくの考えたテーマは「命」です。</p>